自衛隊の現場

航空自衛隊幹部候補生学校卒業所感

航空自衛隊70周年記念　奈良基地祭

暑れも押し迫った令和6年12月19日、古都奈良に所在する航空自衛隊幹部候補生学校から約9カ月に及ぶ厳しい訓練を終えた候補生たちは、大きな希望と少しの不安を胸にそれぞれの任地へと巣立って行きました。この度卒業したのは、一般幹部候補生（防大および一般）および3尉候補者課程の学生たちです。

古都奈良を巣立つ卒業生

藤山　翔栖（千葉県出身）

（BU課程卒業生）
一般幹部候補生　空曹長

1　本課程で得たこと

（1）新たな出会い

幹部候補生学校には、さまざまな課程があり、それぞれが入校と卒業を繰り返しています。各課程の出身や背景は全く異なり、一般大学から就職してきたU学生（旧U課程）、部隊を経験してきたI課程、ベテラン自衛官として部隊を支えてきたS課程など、他にもMDN課程やA課程など、多くの課程があります。これらの同期との交流を通じて、考え方や視点の違いを学ぶことができたと感じています。

（2）幹部としての自覚

本課程では、指揮官や幕僚としての勤務経験を積む機会が多くあり、また、同期の指揮官の下で列員として働く機会も多くありました。その中で、「人の前に立つこととは何か」「部下がついてくる幹部とはどのような人物か」といった点について深く考えることができました。

これらの課程は、座学で学んだことを愚直に実践するだけでは完全には達成できないと感じました。座学の学びに加え、自己の経験や考えをしっかりと持ち、それに基づいて行動することが重要であると認識しています。また、身だしなみや立ち振る舞いなど、幹部としての一挙手一投足が常に注目されることについて、実際に列員として指揮官を見て強く感じたため、常に意識しなければならないと考えました。

全体を通して、「幹部とは何か」という問いに対して自分なりの答えを見出し、幹部自衛官になるという自覚を持つことができたと思います。

2　卒業後の抱負

学生隊舎の玄関には「人間性の欠如は他の如何なる才能をもってしても補うことはできない」と掲げられています。私は、幹部自衛官として今後、高い人間性を持ち、部下を統率できる人物になりたいと考えています。初級幹部は、自己の特技や技術を高めることが求められますので、その修練にも励むべきですが、同時に人間性を磨き、常に高い意識を持って職務に取り組むことが重要であると考えています。

園部　紗耶香（埼玉県出身）

（BU課程卒業生）
一般幹部候補生　空曹長

1　本課程で得たこと

（1）コミュニケーション力

本課程は、防衛大学校出身の学生や一般大学出身の学生、部内出身の学生など、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まっていることが特徴です。

このような環境でさまざまな人と関わる中で、多様な考え方を吸収し、個々のリーダーシップの在り方を知ることができたことが大きな収穫でした。

スピーチ朝礼や討論では、同じテーマが与えられても、各人が異なる視点から自分の考えを発表し、教育部のディスカッションスタイルの授業では、戦史に基づいた戦い方について討論を行いました。

これまであまり触れたことのなかった内容に取り組む中で、さまざまな人とのコミュニケーションを通じて、幹部自衛官に必要な視点や考え方の基礎を養うことができたと感じています。

3km計測スタート

（2）思考力

本課程での教育を通じ、一貫して「考えること」「自分の考えを持つこと」の重要性を学びました。幹部自衛官は、他人の意見を聞くことが大切ですが、同時に他人の意見に惑わされることなく、自分の決断を下さなければなりません。

また、部隊や部下に命令を下す際には、納得できる明確な理由と根拠を示さなければ、指示通りに行動してもらうことは難しいです。そのため、しっかりと自分の軸を持ちつつも、意識的に他人の話に耳を傾けることの大切さを学びました。

教育部の指揮総合研究では、自分の任務や目的を強く意識することによって、論理的に手段や方法を考える力を養い、任務達成に向けた責任感を深く感じることができました。

2　卒業後の抱負

幹部候補生学校での課程期間を通じて、幹部としての振る舞いや指揮官としての決断力の重要性など、数多くのことを学びました。

一方、空士としての経験もある自分は、各立場の隊員の気持ちを理解できる点が強みだと考えています。

新しい立場においては、大局的な視点を持ちながらも、常に謙虚な気持ちを忘れず、さまざまな立場を理解できる幹部でありたいと思っています。

銃の分解・結合

訓練始め

岩見沢（北海道）
駐屯地、訓練始めを実施
綱引きで団結強化、安全祈願で士気高揚

綱引きの様子

陸上自衛隊岩見沢駐屯地（司令・山下拓路1等陸佐）は1月9日、「令和7年訓練始め」を実施しました。

地域から信頼される部隊を目指し、今年一年の勢いをつけるため、全員参加型の綱引き大会が行われました。

大会には、第12施設群の群本部と各中隊、さらに第2直接支援中隊や業務補給隊の全7チームが参加。各チームは独自の作戦を駆使し、1チーム15人（対群本部戦は10人）によるトーナメント戦で熱戦を繰り広げました。

決勝戦では本部管理中隊と第398施設中隊が対決。両者一歩も譲らぬ接戦の末、本部管理中隊が昨年に続き優勝し、2連覇を達成しました。

綱引き終了後には、安全祈願の一環として、各指揮官車両（小型トラック）のタイヤに日本酒をかけ、今年一年の安全を願いました。

本訓練始めを通じて、岩見沢駐屯地は部隊の団結を強化し、士気を高めることができました。新年の隊務を力強くスタートし、地域の期待に応える決意を新たにしています。

南恵庭（北海道）
第3施設団、訓練始めで新たな決意
「虹」に込めた思いと団結強化のフットサル

陸上自衛隊第3施設団（団長・鹿子島洋陸将補）は1月8日、令和7年団本部訓練始めを実施しました。

団長は年頭の辞で、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境において、次世代へ平和で明るい未来を手渡すため、「知恵と工夫、そして本気の努力」をもってこの難局を乗り越える決意を表明。強靭な第3施設団を共に創り上げることを訓示。

続いて、第3施設団が推進するデジタルトランスフォーメーションの一環として、マシンガイダンス（アシスト機能）付き油圧ショベルを使用した書き初めを実施しました。

「ENIWA」の文字とドローンによる記念撮影

団本部各科から選抜された5人の隊員が「ENIWA」の文字を描き、団長自らは「虹」を揮毫しました。

「虹」は嵐の後に美しい虹が架かるように、困難を乗り越えた先に明るい未来が待つことを象徴しており、夢、希望、平和、結束への思いが込められています。

その後、駐屯地体育館で団長を含む団本部隊員が団結を深めるためフットサルを行い汗を流しました。

士気を高めて、令和7年の新たなスタートを力強く切る一日となりました。

滝川（北海道）
機動連隊、団結の訓練開始式
「中隊対抗三本綱引き」で士気高揚

雪の中で中隊対抗三本綱引き

陸上自衛隊第10即応機動連隊（連隊長・小林邦之1等陸佐）は1月9日に訓練開始式を実施しました。

訓練開始式では「中隊対抗三本綱引き」が行われ、今年の干支である「巳年」にちなみ、3本の綱を使った競技が行われました。

開始前に各中隊長が今年の抱負を述べ、合図とともに選ばれた隊員たちが一斉に綱に向かい疾走。競技は迫力満点で、各中隊が作戦を練り優勝を目指し、白熱した戦いを繰り広げました。

全6中隊が参加する中で、激闘の末、本部管理中隊が見事優勝を飾りました。勝敗を問わず、隊員たちは団結を深め、士気を高める良い機会となりました。

この勢いを活かし、今後の訓練でも力を発揮することが期待されます。

都城（宮崎県）
訓練始めで団結力を発揮
家族会会員も見守る中、第4中隊が優勝

陸上自衛隊都城駐屯地（連隊長・石岡直樹1等陸佐）は1月9日、駐屯地グラウンドにおいて訓練始めを実施しました。

訓練始めでは、駐屯地オリジナルの競技が行われ、グラウンド中央に配置された綱1本（9点）、竹2本（各5点）、木銃101本（各1点）を奪取し、合計120点満点で得点を競いました。

競技は各中隊がトーナメント形式で対戦し、開始線から50m離れた地点より一斉にスタート。隊員たちは息の合ったチームワークと団結力を見せつけ、熱戦が繰り広げられました。

競技開始後の激しい綱引き合い

当日は快晴の中、自衛隊家族会や駐屯地モニターの方々も参列。らっぱ手による軽快な「突撃」の吹奏で幕を開けた競技は、白熱した展開の末、第43普通科連隊第4中隊が見事、優勝を果たしました。

参列者からは、「隊員さんの迫力に圧倒されました。日頃の厳しい訓練の成果が感じられ、とても頼もしいです」といった感嘆の声が寄せられました。

隊員たちの気迫と熱意に満ちた訓練始めは、参列者に強い印象を残しました。

福知山（京都府）
第3師団武装走競技会
第7普連が体力と団結力を競い合う

ゴール手前の地獄の上り坂

陸自第7普通科連隊（連隊長・佐藤敏人1等陸佐）は、令和6年12月13日から17日の間、青野ヶ原演習場において「第三師団武装走競技会」に参加しました。

本競技会には、第3師団管内で選ばれた隊員が出場し、武装した状態でのチーム走と個人走が行われました。

競技では、個人の体力、戦技能力、そして部隊の団結力が試され、隊員たちが互いに競い合います。チーム走は8人で編成され、起伏のある約4kmのコースを走りながら、各所で警戒自衛戦闘射撃や、第一線救護を行い、チーム一丸となってゴールを目指しました。

個人走では隊員が日頃の体力訓練の成果を存分に発揮し、限界に挑戦しながら激走を繰り広げました。

百里（茨城県）
百里基地　地域防災訓練に参加
300人分の炊き出しや広報活動を実施

300人分の豚汁の炊き出しを実施

令和6年11月17日、航空自衛隊百里基地は石岡市立東小学校で行われた地域防災訓練に参加しました。

この訓練では、300人分の豚汁の炊き出しや車両展示、広報活動を実施し、災害時の活動について地域住民の理解を深めるとともに、野外炊事能力の向上を図りました。

また、会場では空自に関する説明や広報グッズの配布を行い、百里基地の存在をアピールしました。訓練への参加者は空自への関心が高く、多くの質問を受けた隊員は真摯に対応し、好感を得ることができました。

防災訓練を通じて、地震発生時の災害派遣活動を訓練し、活動能力を向上させるとともに地方公共団体との相互理解と基地周辺住民の自衛隊活動に対する理解を深めることができました。

特に撤収時には、空自隊員の手際の良さが賞賛され、隊員の高い練度が再認識されました。

二十歳の祝い

えびの（宮崎県）
二十歳の新たな決意、駐屯地でお祝い行事
レンジャー訓練塔から決意表明

高さのある訓練塔から決意表明

陸上自衛隊えびの駐屯地（司令・大江良治1等陸佐）は1月17日、「令和七年えびの駐屯地二十歳のお祝い行事」を開催しました。

当日は二十歳を迎えた10人の隊員が、駐屯地隊員や協力団体の方々が見守る中、レンジャー訓練塔に登って決意表明を行いました。緊張と高さに挑みながら、「新たなことに挑戦するぞ」「貯金をするぞ」「彼女を作るぞ」と、それぞれが力強く掘負を叫び、会場には笑いと温かい拍手が響き渡りました。

駐屯地司令の大江司令は、新成人となった10人に対し、「時間を大切に使い、責任感を持ち、多くのことに挑戦してほしい」と励ましの言葉を贈りました。

行事の最後には、駐屯地の先輩隊員からエールが贈られ、仲間や家族会、関係者に見守られる中で新たな門出を祝福しました。

笑顔と熱意に満ちた二十歳の新たな挑戦は、えびの駐屯地全体に希望を与えるひとときとなりました。

仙台（宮城県）
駐屯地成人行事、希望の新成人たち
自衛官として、社会人として成長を誓う

二十歳を迎え抱負を披露する隊員

陸上自衛隊仙台駐屯地（司令・大野真陸将補）は1月15日に成人行事を開催しました。会場の隊員食堂には仙台市長代理の宮城野区長をはじめ、多くの来賓や部隊長、新成人の家族が参加しました。

式典で駐屯地司令は、成人を迎えた26人の隊員に対して祝辞を述べ、「自衛官としての使命を自覚し、日々努力して成長を続けてほしい」と激励しました。

また、家族への感謝の気持ちを忘れず、社会人としての責任を自覚し、常に進化し続けることを祈念しました。

成人隊員を代表して、東北方面システム通信群の庄司法生3等陸曹が、「私たちを育ててくれた家族、指導してくれた上司や先輩、共に励まし合った同僚に感謝しています」と述べ、今後も立派な自衛官として成長する決意を誓いました。

その後、東北方面音楽隊の演奏を背景に、和やかな祝賀会が行われました。

新成人たちからは一人一人、二十歳を迎えた抱負が一言ずつ述べられ、希望に満ちた姿を見せました。来賓や家族からは「立派な成人行事で感動した」と多くの称賛が寄せられました。

船岡（宮城県）
駐屯地成人行事、成長を祝う
二十歳を迎えた隊員たちの決意

自らの決意を込めた漢字を掲げる

陸上自衛隊船岡駐屯地（司令・野村和弘陸将補）は、1月15日に令和7年駐屯地成人行事「二十歳のつどい」を開催しました。

対象となった22人のうち、激育入校等で欠席した6人を除く16人が参加し、自衛隊家族会をはじめとする協力団体の方々も見守る中で行われました。式典では、国歌斉唱に続き、駐屯地司令から「初心を忘れず、目標達成に向けて挑戦し続けてほしい」という激励の言葉が贈られました。

続いて、二十歳を迎えた隊員が色紙に自らの決意を込めた漢字一文字を掲げ、一人一人が抱負を語りました。「明」を掲げた渡辺明菜士長は「両親がつけてくれた名前の一文字に感謝を込め、明るく前向きに生活していきます」と力強く述べました。他にも「律」「筋」といった漢字に込められた決意が語られ、それぞれの思いが会場に響きました。その後、船岡さくら太鼓の演奏が行われ、力強い音色が参加者を祝福しました。家族や来賓の方々は、成長した隊員たちの姿に感動し、目頭が熱くなる場面もありました。

成人を迎えた隊員たちは、それぞれの決意を胸に、新たな一歩を踏み出しました。ご家族にも、この特別な日を共に祝う喜びと誇りが感じられる一日となりました。

市ヶ谷（東京都）
令和6年度防衛省職員向けサイバーコンテスト
防衛省整備計画局サイバー整備課　防衛事務官　下崎　鈴惟

令和6年12月18日、令和6年度防衛省職員向けサイバーコンテストの表彰式が行われました。

令和4年度から実施している本コンテストは、CTF（Capture the Flag）形式で行われ、情報セキュリティ分野の専門知識や技術を駆使して、隠された答え（Flag）を見つけ出すクイズ形式の競技です。

上位5人には満点を獲得した者に対して整備計画局長賞が授与され、同じく満点を獲得した6～8位の3人と21歳以下部門で上位5人に対しては、サイバーセキュリティ・情報化審議官特別賞が授与されました。

整備計画局長賞を受賞した前田3等陸佐

サイバーセキュリティ・情報化審議官特別賞受賞の舞鶴衛生隊小川真防衛事務官

このように、今年度の順位決定においては、同点の場合、回答時刻の早さを基準に順位が決定されました。

また、21歳以下部門でサイバーセキュリティ・情報化審議官特別賞を受賞した海上自衛隊舞鶴衛生隊の小川真防衛事務官は、「課業後に自宅で勉強していた」と答えました。

さらに、同部門で受賞した高等工科学校の藤井純也学生と吉長谷香樹学生は、「将来はサイバー分野で活躍したい。地元の地方協力本部でサイバーの魅力を次世代に伝えていきたい」と語りました。

本サイバーコンテストは、サイバーセキュリティに関する能力を有する職員を発掘するとともに、職員間での知識の普及啓発を促進する重要なイベントとなっています。

聞くと、受賞者の多くは日常的にCTFの勉強を行っているとのことです。

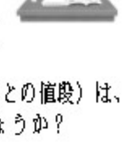
例えば、整備計画局長賞を受賞した陸上自衛隊システム通信監査隊の前田貴匡3等陸佐は、「防衛大学校で情報工学を学び、そこから自己研鑽を続けてきた」と述べました。

数字　頭の体操㉕

問題

ある商品に2割増しの定価をつけ、その後、定価の1割引きで売ったところ、利益は60円でした。

この商品の原価（もとの値段）は、いくらだったでしょうか？



（解答は、7面に）
（出題・解説：antaka）
＊漢字あそびはお休みします。

地獄谷温泉後楽館は自衛官を応援しています